

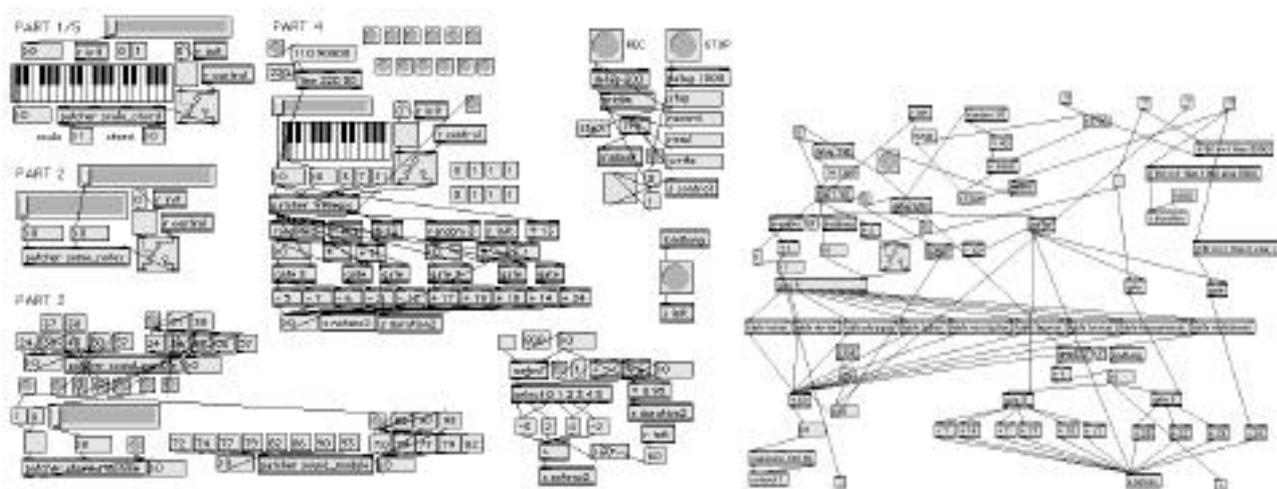
# Great Acoustics

for Organ and Live Computer Music

Yoichi Nagashima

Organ : Maiko Shiokawa

この作品への取り組みは、毎年公開講座コンサートを行ってきた相愛大学ホールの正面にあるパイプオルガンに挑戦してみたい、という無謀な願望を原動力としてスタートした。楽器の王様であるオルガン(西洋音楽においては、わざわざパイプオルガン、と言う必要はない)の音色は、それぞれのパイプの長さの比例関係から音色の構成を規定できるなど、西洋音楽の数学的合理性の象徴のような存在としてよく知られている。しかし、倍音合成方式シンセサイザで簡単にそれっぽい音色が作れる、という理屈とは別に、取材のためにいざホールの本物のオルガンに接すると、その圧倒的な存在感にまず途方にくれることとなった。コンピュータによってライブでデジタル音響処理を行う、という作戦にしても、まずマイクをどこに置けばいいのか、と困惑することになったが、最終的な結果はともかく、このような機会を与えてくれた相愛大学に感謝したい。作品は、一見すると古典的な外見の楽譜を演奏するオルガン奏者(塩川)と、そのライブ音響に対して私がKymaにより音響処理を加えることで進行するが、実はその楽譜は以下のようなMAXパッチにより私が自動作曲アルゴリズムの音楽的な枠組みを創作した中で、コンピュータが乱数を要素として生成した音楽演奏情報を用いて、ソフトウェア"Lime"で作成したものである。



1999年6月末、私は初めて沖縄に行った[<http://nagasm.org/okinawa/>]。そして初めて沖縄南部戦跡を巡り、「ひめゆり」で有名な沖縄戦の史実と直面した。オルガン演奏の塩川さんには、楽譜とサンプルCDとともに、ひめゆり平和祈念資料館のガイドブックが届けられた。これが作品コンセプトの背景となっている。

## 塩川麻依子

1999年3月神戸山手女子短期大学音楽科ピアノ専攻を卒業。長嶋洋一、富岡健、土井充子、各氏に師事。現在、宝塚中山台コミュニティセンター表現スタジオにて、ピアノ伴奏と合唱指導アシスタントを担当。1999年12月のインターカレッジコンサート(早稲田大)にて、作曲家として前年に続き新作を初演した。